

## 本園の教育目標

附属こども園の理念・使命・目的に基づき、就学までに次のような子どもの育ちを育成することを目標として教育・保育を行う

- (1) 恵まれた自然環境の中で、いきいきと遊ぶ子ども
- (2) すなおに自分を表現するこども
- (3) 人とのかかわりの中で思いやりや親しみをもつ子ども
- (4) 心豊かで、創造性のある子ども
- (5) 遊びを工夫し、進んで行動する子ども

## 平成30年度重点目標（事業計画）に対する自己評価

※括弧内は昨年度の評価

自己評価総括のランクは、A B Cの3段階とし、次頁以降に「自己評価」で2/3以上A評価となった重点目標項目を「A」ランク、2/3以上AまたはB評価を「B」ランク、それ以外を「C」ランクとする。

## 重点目標に対する自己評価総括

1	教育・保育内容の改革と尚絅らしさの追求	B (B)	尚絅らしさの追求という本園の教育理念の実現に関しては、新教育保育要領の改訂の趣旨が本園の教育理念と重なるため、各観点において充実した活動を行うことができた。特に、本園の自然環境を生かした教育活動と遊び活動の中に組み込まれている「食に関する活動」は、保護者からも高い評価を受けているところである。ただ、幼児教育の観点からは、教育・保育内容の精選を図り、一つ一つの教育活動や行事にじっくり取り組みつつ、子ども一人一人の変容を保護者と更に共有していくことも必要である。教育・保育内容の見直しと行事の精選は、今後の教育的・社会的動向や入園してくる子どもの実態、保護者の意向も踏まえた上で、継続的に検討していく課題である。
2	園児の確保	A (B)	園児確保に関する一連の事業については、どの観点においても自己評価においては高いランク示された。目標に合わせた取組がなされた結果である。特に、ホームページの閲覧数は、園児募集時期には、月間12000近く(昨年比の2倍)に上り、在園児の保護者だけでなく入園希望者が高い関心を示していることも分かった。ただ、本年度から入園者決定方法を抽選制に変えたこともあり、説明会・見学会参加者やホームページの閲覧数の数字が実際の入園希望者数に十分反映されていないところも伺える。少子化傾向の中で近隣の就学前教育施設は、こども園への移行や早期教育等を掲げ、園児確保に力を入れているところもあり、次年度に向けた入園者決定方法についても見直しを図る他、入園優先枠を広げる必要もある。何より、新学習指導要領に沿った本園の教育理念及び短期大学部との連携などの本園の教育の特色を効果的に周知する必要がある。
3	保護者支援改革	A (A)	保護者支援のあり方について、幼児棟と保育棟では支援のニーズが違うこともあり、評価に微妙な差が見られた。そのような中、誕生会の「おしゃべり広場」や「親と子の集い」など親同士のネットワークが広がる活動は、高評価を受けていたが、園主催の講演会等については、その評価が二極化するところであった。一方、子育て支援室を中心に実施された子育て支援は、短期大学部との連携も充実し好評であった。本園の子育て支援室は、対外的にもっと情報発信し、尚絅ブランドの信頼向上につなげたい。
4	教育・保育の指導力向上	B (B)	短期大学部の様々な支援や指導などの連携により園内研修が充実し、特に若手保育者の指導力向上につながった。本園の場合、研修に際しては、積極的に短期大学部幼児教育学科との連携を今まで以上に図っていくことが実践的な指導力向上にもつながると考える。
5		A (B)	小学校との接続を見据えて、市や町の子育て支援課や教育委員会との連携はもとより、園児の進学先となる学校とも訪問や行事参加だけでなく、研修等にも参加するなど積極的な連携ができた。業務の関係で一部の職員に偏らないよう努める必要がある。地域の方々との交流に関しては、開催時期のバランスも考慮し一時期に偏らない様に見直す必要がある。

『評価基準』 A ; 十分達成 (85%以上) B ; 概ね達成 (70%以上) C ; やや不十分 (50%以上) D ; 不十分 (50%未満)

<カテゴリ>	<中長期行動計画>	評価の観点 <重点施策>	具体的な目標・施策 <具体策>	評価	成果及び課題
教育・保育内容の改革と尚絅らしさの追求	豊かな自然環境を生かした特色ある園づくり	自然環境の整備	①こども園周辺の森をあそびの森にするための自主勉強会の実施 ②園庭及び保育棟南側高台の環境整備	B	年度後半から保育棟南側の高台を積極的に活用した保育が展開されるようになってきた。それに伴う安全管理および植林など環境整備を継続的に行う必要がある。
		特別な配慮を要する園児への施設設備の充実	①自然環境と調和した遊具の配置 ②支援の必要な園児への配慮等、教育・保育充実のための施設整備と維持管理	B	ユニバーサルデザインを意識した教材や遊具の設置、購入がされるようになってきている。今後、各保育室には視覚的教材の充実など一層の施設設備の充実を図りたい。
	教育・保育内容の充実	教育・保育内容の改善	①教育・保育要領に基づいた年間行事の見直しと保育プランの見直し ②家庭的な雰囲気の中で過ごせる乳児保育の環境づくり ③絵本や物語に親しむ環境づくり	B	保育棟において、子どもが安心して過ごせる環境づくりとそのノウハウが確立してきた。3歳以上では本に対する興味は二極化傾向にあり、保育者の働きかけが必要。実態に合わせ教育・保育要領の重点化を図り、年間行事の精選も含めた保育プランの見直しを図りたい。
		自然を体験する学びの推進	①親と子の豊かな自然体験の推進 ②落ち葉を利用した腐葉土づくり	A	季節に応じて、子どもの発達段階に合わせた親子の自然体験が園内の環境でできている。
	魅力ある食育活動の推進	畑を活用した栽培と収穫	①季節に応じて種まき、苗植えから始める栽培、収穫の体験	A	年間計画に従った活動ができているが、特に栽培活動に主体性を持たせる保育計画の作成が課題である。
		調理体験の実施	①栽培物での調理体験と親子での調理体験の実施	B	年間計画に従った活動を行うことができたが、子どもたちに主体性を持たせるための活動計画の見直しや行事の精選が必要である。
		食育計画の立案と実施	①「食を営む力」を培うための食育の年間計画に基づく実施 ②食べることの喜びや楽しさを実感する体験の充実 ③食を通して食事マナーや文化を伝える教育の実施 ④子育て研究センター、食育研究センターとの連携	B	食育の理念および食育指導における給食指導の位置づけについて職員の共通理解を図り、保護者に対しての周知を図った結果、充実した給食指導を実践することができた。今後、食に関する活動と給食指導の連携をより充実させるなど、教育目標を見据えた保育計画における食の活動を見直す必要がある。
広報活動の推進	入園パンフレット・ポスター及びWEBページの充実	①入園パンフレットの内容とポスター掲示場所の検討 ②WEBページの内容充実と「お知らせ欄」の定期的な更新	A	ウェブページについては、給食献立を公開する等内容の充実を図り、閲覧数の増加にもつながった。今後、保護者のSNSの活用も視野に入れた広報活動が必要である。	
	保護者への説明会・見学会の開催	①入園希望者への説明会実施 ②見学希望者への見学会を定期的に実施	A	見学希望者や入園希望者に対して組織的な対応が行われるようになったが、その内容については改善の余地がある。	
園児の確保	子育て支援室の利活用	積極的案内と利活用の促進	①子育て支援室参加者へのこども園教育・保育の紹介及び園見学の実施 ②利用者の満足度を高めるための、支援室活動内容の見直しと実施	A	本園の保育・教育内容や活動の理解という点では、子育て支援室の果たしている役割は大きい。利用者の満足度も高かった。今後、子育て支援室の周知方法の強化や子育て支援室利用者への一層の利便性向上に努める。
		短期大学部教員との連携強化	①就園を前にした保護者への講演等子育て研究センター等との連携	B	子育て支援室に関しては充実した連携が行われた。尚絅ブランドを広めることに積極的に活用したい。
スクールバス運行の工夫	スクールバス運行とバスコース・バス停の検討	①年度ごとのバス利用者を考慮したバスコース、停留所の見直し検討 ②各停留所等地域への協力依頼 ③バスの安全運行のための車検、点検等及び安全運転管理者等講習会への参加	A	保護者や地域の要望・希望に適切に対応し、安全な運行ができた。今後もバス停利用場所の依頼を丁寧に行うとともに、保護者へのマナー指導も継続的に行っていく。	

『評価基準』 A ; 十分達成 (85%以上) B ; 概ね達成 (70%以上) C ; やや不十分 (50%以上) D ; 不十分 (50%未満)

<カテゴリー>	<中長期行動計画>	評価の観点 <重点施策>	具体的な目標・施策 <具体策>	評価	成果及び課題
保護者支援改革	在園児保護者への子育て支援	講演会・子育て相談・援助の実施	①1学期と3学期の保育参観後の保護者講演会の実施 ②誕生会、おしゃべり広場の充実と個人面談の実施 ③スクールカウンセラーの設置と周知	A	個別の教育相談・子育て相談は関係諸機関や療育施設とも連携を取り、積極的に行うことができた。講演会等については参加する保護者とそうでない保護者の二極化が見られている。
		延長保育・預かり保育の充実	①延長保育の内容充実と利用保護者への連絡体制の強化 ②預かり保育と延長保育担当職員の連携強化	B	延長保育や預かり保育の運営について職員間で共通理解を図り、成果はあった。預かりの保育の人数を増やして欲しいという要望への対応が必要である。
		特別支援教育の充実	①発達相談会の実施 ②市、町等特別支援連絡会や研修参加 ③個別指導計画の作成と特別支援教育に必要な教材研究	B	相談会の成果が保育現場でも実践でき、子どもの変容につながった。市や町との連絡会や研修には、特定の職員だけでなく、互換性を含めた体制を構築する必要がある。
		健康管理の実施	①内科、歯科検診と尿検査の実施 ②園内の衛生検査や衛生管理及び健康管理の徹底	A	園医との連携がとれている。衛生管理・健康管理面では監査でも良好な評価を受けた。感染症防止のための研修およびその記録を残していく必要がある。
	地域保護者への子育て支援	講演会・講習会の実施	①短期大学部教員及び子育て研究センター、食育研究センター等教員による講演会等の実施 ②地域ボランティア等外部講師による講演会、講座等の実施	A	子育て支援室との連携を通し、利用者への講習会や講演会の周知が行われ、利用者のアンケート結果からも評価は高かった。地域のスポーツクラブのボランティアなどの活動も取り入れた。活動内容をもっと周知していく必要がある。
		保育体験の実施	①園庭や支援室での親子遊びの体験 ②2歳クラス、満3歳児クラスでの保育参加体験 ③園行事の見学及び参加	A	子育て支援室が仲介役となり、積極的に行われた。また、中学生や高校生の保育参加体験にも協力することができた。
子育て相談、援助の実施		①子育て支援室担当職員及びこども園職員による子育て相談や情報の提供 ②短期大学部教員による子育て相談会の実施	A	子育て支援室担当や主幹教諭たちが窓口になり、情報提供を行ったり、相談に立ち会ったりした結果、一応の成果を得た。	
教育・保育の指導力向上	園内研修の充実	教育・保育課程テーマ研修の開催	①教育課程の研修テーマに沿った園内研修の実施 ②こども園教育保育要領改訂に伴う勉強会の実施 ③事例研修会、園内公開保育等園内研修の充実	B	エピソード研修では、全員が日々の保育を発表し、保育教諭としての子どもとの関り方を学ぶ充実した研修だった。
		乳児保育研修の開催	①乳児保育について年齢別、テーマ別の研修を実施 ②子育て研究センター主催の乳児保育研修会に参加、事例発表	B	保育棟職員が計画的に園内研修を行い、外部研修にも参加した。
		環境会議の開催	①2週間に一度保育環境会議の開催	B	会議の内容や記録の取り方などを見直しながら、保育活動の共通理解や環境整備の焦点化に役立った。

『評価基準』 A ; 十分達成 (85%以上) B ; 概ね達成 (70%以上) C ; やや不十分 (50%以上) D ; 不十分 (50%未満)

<カテゴリー>	<中長期行動計画>	評価の観点 <重点施策>	具体的な目標・施策 <具体策>	評価	成果及び課題
教育・保育の指導力向上	研修会・研究会等の積極的参加	全幼研・連合会主催の研修会等への参加	①全幼研・連合会主催の研修会参加やキャリアアップ研修会の参加と報告会の開催	B	幼児棟の職員は、年間の計画に沿って研修会に参加した。キャリアアップ研修も参加しやすい体制づくりが必要である。
		日保協研修会への参加	①「日保協会」主催の乳児保育、及び障害児保育研修会参加と報告会の開催	C	「日保協会」の研修は日程調整がつかず不参加。保育棟の職員は別の研修会に参加した。今後、「日保協会」主催にこだわらず研修計画を立てることとしている。
		実技研修会・その他の研修会等への参加	①実技、実践研修会及び人権教育研修会等への参加と報告会の開催	A	夏季研修会での研修成果を報告し、2学期からの実践活用をした。人権教育関係への研修参加を増やしていく必要がある。
	短期大学部との合同研修及び研究会	短期大学部との連携	①園内研修会参加の呼びかけ ②運動能力測定の実施 ③日常的な保育や保護者対応等の相談 ④子育て研究センター、食育研究センターとの協力及び連携	A	短期大学部から教育実習の関係に留まらず、様々な人的物的支援をいただいた。また、園内研修に関しても実績のある研究者の先生方との指導を受ける機会を作っていただいたおかげで、職員の資質向上につながった。食育の面でも食育研究センターとの連携がとれた。今後も強化したい。
		実習生指導計画案の内容検討	①幼児教育学科学生による実習の指導内容の確認と研究保育に向けた課題の設定 ②幼児教育学科実習担当教員との指導内容、課題等連絡会実施	A	実習の指導内容や記録の面で、短期大学部幼児教育学科と十分な打ち合わせをすることができ、学生の実習成果につながった。今後とも連携を充実させていきたい。
地域連携の推進	地域交流の充実	行事の参加	①地域の方と園児とのふれあいと交流を目的とした園行事の実施	A	もちつきや運動会、昔遊び等参加していただき、交流が図られた。こどもの手紙等を招待やお礼に活用することで、相互の関係も一層深まると考えられる。
		世代間交流の推進	①地域老人会等、子育ての知識、技術、遊びの伝承を目的とした世代間交流の交流 ②中学校、高校等の職場体験の受入れ	B	中学校のナイストライや高校の実習にも積極的に協力をした。園の行事に世代間交流目的を明確に位置付けることで行事の精選も可能であると考えられる。
	幼小連携の推進	職員による学校訪問	①授業参観、幼小連絡会議、運動会、入学式、卒業式等への参加	A	案内のあった行事には積極的に職員を派遣し、連携を図った。ただ、参加職員が偏った面があったので広く呼び掛けていきたい。
		連絡会の実施	①就学先小学校との連携や交流を図る連絡会の開催 ②武蔵ヶ丘中学校校区連絡推進協議会への参加	A	特別支援教育面の連携を図る上で関係小学校とは丁寧に連絡を取り合うとともに、行政との連携、情報共有も充実した連携が取れた。

自己評価を今後にかつために

◎「重点目標に対する自己評価」は、全5項目中3項目がAとなり、昨年度より向上したことは成果である。  
◎今後は、園の本務である「教育・保育内容」と「教育・保育の指導力向上」のB評価を上げるように努力していきたい。



教育に関して「保護者」「職員」にアンケートを実施しました。

調査時期 平成30年12月

調査対象 0歳児・1歳児（19名）、2歳児・満3歳児（28名）、年少（84名）、年中（87名）、年長（87名）、職員（57名）

回収率 0歳児・1歳児（94.7%）、2歳児・満3歳児（82.1%）、年少（94.0%）、年中（81.6%）、年長（90.8%）、職員（100%）

結果 4. とてもそう思う 3. そう思う（だいたいよい） 2. やや不十分 1. 不十分

お子さまの状況について（対象：保育棟 0・1・2・満3歳児）

保護者回答 (%)

職員回答 (%)

	アンケート内容	4	3	2	1
1	こども園の生活全体を通して、楽しく過ごせていると思いますか。	87.8	12.2	0.0	0.0
2	こども園で友だちと一緒に過ごすことを楽しんでいると思いますか。	85.4	14.6	0.0	0.0
3	こども園で伸び伸びと楽しんで遊んでいると思いますか。	92.7	7.3	0.0	0.0
4	豊かな自然環境の中で季節を感じ、自然を体感し、健全な心と体が育まれていると思いますか。	90.2	9.8	0.0	0.0
5	こども園の給食を楽しみに食べていると思いますか。	85.4	14.6	0.0	0.0
6	安心できる保育教諭に欲求を満たしてもらい安定して過ごしていると思いますか。	82.9	14.6	2.4	0.0

	4	3	2	1
	56.0	44.0	0.0	0.0
	44.0	56.0	0.0	0.0
	72.0	28.0	0.0	0.0
	84.0	12.0	4.0	0.0
	48.0	44.0	8.0	0.0
	48.0	44.0	8.0	0.0

お子さまの状況について（対象：幼児棟 年少・年中・年長組）

保護者回答 (%)

職員回答 (%)

	アンケート内容	4	3	2	1
1	こども園の生活を楽しんでいますか。	57.6	38.9	3.1	0.4
2	年齢に応じた基本的な生活習慣が身についていますか。	53.7	40.6	5.7	0.0
3	家庭で、こども園のできごとを話しますか。	48.5	41.5	9.6	0.4
4	こども園で友だちと一緒に過ごすことを楽しんでいますか。	60.3	33.6	5.7	0.4
5	遊びや集団生活の中での「決まり」を知り、守ろうとしていますか。	58.5	38.0	3.5	0.0
6	こども園で十分身体を動かし、進んで戸外で遊んでいますか。	60.7	35.8	3.1	0.0
7	豊かな自然環境の中で季節を感じ、自然を体感し、健全な心と身体が育まれていますか。	75.1	23.6	1.3	0.0
8	こども園の給食を喜んで食べていると思いますか。	67.7	27.5	3.1	1.3
9	いろいろな素材を使い表現することで、遊びが充実し、創造性が育まれていますか。	57.6	36.2	5.7	0.4
10	友だちとお互いの気持ちや欲求が異なることに気づき、自分の気持ちを調整する力が育まれていますか。	44.5	47.2	8.3	0.0
11	自分の思いや気持ちを言葉や態度で伝えることができますか。	30.1	53.7	15.3	0.9

	4	3	2	1
	30.8	69.2	0.0	0.0
	19.2	73.1	7.7	0.0
	46.2	50.0	3.8	0.0
	26.9	65.4	7.7	0.0
	42.3	53.8	3.8	0.0
	52.0	48.0	0.0	0.0
	23.1	65.4	11.5	0.0
	38.5	57.7	3.8	0.0
	19.2	61.5	19.2	0.0
	15.4	76.9	7.7	0.0

	アンケート内容	4	3	2	1
1	こども園の施設・設備は安全に管理や整備ができていますか。	56.3	36.7	7.0	0.0
2	こども園は遊びの環境（遊具や自然環境）が整っていますか。	75.6	22.6	1.9	0.0
3	職員は子どもが主体的に遊びを展開できる工夫をしていますか。	74.1	24.8	1.1	0.0
4	職員は一人ひとりの人権を尊重し、子どものことを理解して保育をしていますか。	65.6	30.7	3.7	0.0
5	こども園は絵本に親しむ環境が整備され、遊びや生活の中で言葉への興味・関心が育っていますか。	64.8	33.3	1.9	0.0
6	こども園が行う子育てに関する行事（保護者会・個人懇談会・誕生会・おしゃべり広場・講和等）は、子育ての参考になっていると思いますか。	50.4	43.0	5.9	0.7
7	こども園は教育相談等一人ひとりの育ちにあった対応をしていますか。	50.0	43.3	5.9	0.8
8	こども園からの情報（お便り、掲示板、ホームページ等）は参考になりますか。	50.4	47.0	2.2	0.4
9	幼保連携型認定こども園の制度や仕組み及び生活に慣れましたか。	47.8	44.8	6.3	1.1

## アンケートの考察

- ◎保護者から見た子どもたちの状況については、3歳児未満も3歳以上も3歳児以上の1項目を除き90%以上の満足度を感じているという数字が出ている。その中でも今年度は、3歳以上において5「規範意識の芽生え」について、教職員も保護者も身に付いてきているという意識を持っているのが伺える。
- ◎また、6「戸外で積極的に体を動かしているか」という点でも子どもたちが積極的に戸外で活動していると感じている。
- ◎8「給食についての意識」については、3年間の経年変化で見えてみると、職員も保護者も子どもたちが給食を積極的に食べるようになったと感じているのが伺える。ただ、保護者の意識と職員の意識に若干のギャップが見られるのは、職員が食の指導を丁寧にやっている表れとみられる。
- ◎課題としては幼児棟の2「基本的な生活習慣の身に付け方」や3「家庭で園の出来事を話すか」の項目が3歳以上においては、「やや不十分」が年齢が上がるにしたがって増加傾向にあることである。2つの項目とも家庭との連携の中で対応すべき課題であるし、担任を含め、園からの継続的な情報発信が必要であると考え。保護者が子どもの状況をどうとらえるかは、子どもたちの園での生活の状況を保護者がどれくらい入手できるかとも関係する。朝、夕の送迎で担任たちと顔を合わせる機会の多い3歳未満の保護者と、特にバス登園をしている3歳以上の保護者の情報量の差が微妙にアンケート結果にも表れていると思われる。
- ◎今後もホームページ等を効果的に活用し、家庭で園の楽しい話題が出るような情報や、わが子の様子を客観的に見ることができるよう機会を増やしていきたい。
- ◎「こども園及び職員について」は平均95%以上の満足度を頂いている。保護者が本園の教育・保育活動を温かく見守っていただいている成果であると考え。
- ◎アンケートの実施時期を昨年より早めたので、単純に比較はできないが、8の「こども園の情報発信について」や、9の「こども園への移行」に対する質問に対して「十分満足」のポイント数が5ポイントほど上がっているのは、園からの積極的な情報発信が好意的に受け止められている結果だと考える。
- ◎施設管理面や特別支援教育等についても、今後重点的な情報発信を行い「十分満足」のポイント数を伸ばしていきたい。

### <全体の結果について>

- ◎こども園に移行して3年が経過した。試行錯誤をしながら教育・保育の内容を改善しており、しだいに保護者にもご理解をいただいていると考えている。
- ◎しかしながら、まだ「幼稚園教育」の内容が残り、園行事に保育棟の保護者が参加し辛いことや、保育棟職員の業務負担等に無理が生じているので、アンケート結果等を活用して、園行事や事業の見直し等をすすめたい。

子育て支援室「どんぐりルームころころ」についてアンケートを実施結果。

調査時期 平成30年12月

調査対象 子育て支援室どんぐりルームころころ利用者25名

結果 4. とてもそう思う 3. そう思う(だいたいよい) 2. やや不十分 1. 不十分

子育て支援室「どんぐりルームころころ」について

(利用者回答) %

	アンケート内容	4	3	2	1
1	親子共に子育ての仲間ができましたか。	48	48	0	4
2	子育て支援室が保護者の子育ての手助けになりましたか。	84	16	0	0
3	お子さんは満足して遊んでいましたか。	84	16	0	0
4	支援室の環境は安全で清潔に保たれていると思いますか。	100	0	0	0
5	職員の対応または態度は適切でしたか。	100	0	0	0
6	子育てに対する相談や支援は充実していましたか。	88	12	0	0
7	育児講座の内容は子育ての役に立つものでしたか。	72	28	0	0
8	育児講座やイベントの回数は適当でしたか。	62	32	4	0

<子育て支援室「どんぐりルームころころ」について>

質問1から質問8までの全項目にわたり、ほとんどの方から「4.とてもそう思う」「3.そう思う」の高評価を受けている。本園の子育て支援活動が地域の未就園児保護者の子育て支援に十分に寄与しており、また、入園希望者の開拓にもつながっていることが再認識された。本園の子育て支援室は、公立や他の保育園、幼稚園とちがい、尚絅大学短期大学部の子育て支援センターとも連携しており、専門スタッフやネットワークを活用した子育て支援が可能であり、本年度は特に充実した活動が行われた。本園の保育・教育のすそ野を広げる意味でも子育て支援室の利用者枠を入園の際に設けることの検討が必要である。

各項目に関して個別にいただいた意見は以下の通り

・質問1・・・「アットホームな雰囲気、通いやすい。」「初めての人にも通いやすい明るい雰囲気、隣の人に話しかけやすかった」

・質問2・・・「療育のことについても色々聞いてもらい、とても参考になった」

・質問4・・・「とても環境がよく安心して過ごすことができた」

・質問5・・・「いつも笑顔で優しく迎えてくれた。」

・質問6・・・「質問にいつも快く応えてくださり相談もしやすかった。」

・質問7・・・「家ででもできるような親子遊びのやりかたを教えてくださいたい」

・質問8・・・「かたんなっせ」の講座でとても救われたのでまた企画してほしい。」

・その他の意見・・・「子どもが笑顔で過ごせる場所。のびのびと元気に自由に遊んでいる印象である。」「先生たちが子どもに寄り添っている。」「どんぐりルームに通い、園のこどもたちの様子を見て、ますます入園させたくなった」

学校評価委員会を開催し、自己評価・関係者評価を基に、評価委員に評価をしていただきました。

日時 : 平成31年1月31日(木) 10:00～

場所 : 尚絅大学短期大学部こども園 会議室

評価委員 : 8名(学園関係者 4名、保護者・地域の方 4名 1人欠席) こども園 : 5名

評価委員による評価 『評価基準』 A ; 十分に達成されている B ; 達成されている C ; 取り組まれているが成果が十分でない D ; 取り組みが不十分である (人)

領域	評価項目	A	B	C	D
こども園の教育・保育力	環境の整理・美化、施設設備の安全管理、衛生管理、遊びの環境、一人一人の園児の尊重、こども園の予定等がわかる情報発信、教育活動への参加	6	1		
子ども一人一人の姿を通じた教育・保育の効果	充実した園生活、基本生活習慣や態度、食べることを楽しむ、体力向上、規範意識、友達への思いやり	6	1		
保育教諭の資質	保育内容の工夫、乳幼児理解、問題への対応	6	1		
子育て支援	在園児への保護者支援、地域保護者への支援	6	1		
<b>総合評価 (自己評価及び関係者評価を基に、評価委員が評価した結果) = A</b>		<b>7</b>	<b>0</b>		

評価委員の意見・質問及びこども園からの回答

- ・幼稚園からこども園になっても子どもたちが伸び伸びと地域の方や保護者と関わり、成長していく姿に感謝している。今後は園の行事の見直しと並行して「杉の子会」の一人一役についても、不公平感がないようにやっていきたい。→ 園の保育・教育活動についても保護者の多様な生活の仕方に柔軟に対応できる形でできないか見直していく。
- ・園児の体力向上に向けた取組を強化してもらいたい。→ 短期大学部幼児教育学科と連携し、毎年、年中組・年長組の体力テストを実施するシステムが出来上がった。その結果をもとに子どもたちの遊びの環境づくりや保育計画の見直しを行っていき、子どもたちの体力向上につなげていきたい。
- ・幼児部と保育部の保護者の意識の違いをどう埋めていくかが課題のひとつと思われる。行事のあり方や保護者の参加意識等をフィードバックしながら進めてほしい。→ 次年度に向けて、保護者アンケートや行事ごとのアンケートも参考にしながら年間行事や保育計画の見直しを進めているところである。
- ・アンケートの結果から充実した保育活動が日々行われていることを実感した。今後も更なる向上を目指して実践を続けてほしい。→ こども園の持つ可能性を職員でしっかりと共有し、幼保連携型こども園のモデル園として発信できるように実践を積み重ねたい。
- ・園の様々なイベントをマスコミに対し情報発信してほしい。→ 園児確保や尚絅学園全体の信頼向上のためにも短期大学部と行う活動や地域と関わる行事など積極的に学園事務局と連携しながらプレスリリースをしていきたい。また、保護者のSNS等を活用したり、ホームページもさらに充実させ、尚絅こども園の良さを発信していきたい。
- ・園児の数をもっと増やせないか。→ 現在定員290人に対して305人の子どもたちを受け入れている。子どもの数に対する職員の数や施設、設備は法律で決められており、今後園児の受け入れを増やすなら職員の数や施設設備を見直していく必要があるため、地域のニーズの動向を見極めつつ、対応していきたい。



## ■ 2019年度への課題・改善方法

- ①平成30年度末に実施した行事・保育計画の見直しの検証を図る。子どもたちに寄り添い、「活動への意欲付け」と「活動の振り返り」を位置付けた保育・教育の実践を図るとともに園内研修や研究保育を通し、小学校につながる子どもたちの資質・能力の育成を図る。
- ②カリキュラムマネジメントを意識した園庭の活用計画や周辺の森や林の環境整備を行うとともに活用計画の検証改善を図る。次年度は、地域や保護者の協力と理解も得ながら「子どもたちが主体的に活動する場を確保する」という視点で、園内環境の整備と緑化活動の推進を行う。
- ③園児募集については、30年度実施した抽選制による入園者募集のあり方を検証し、2019年10月から実施される幼児教育・保育の無償化に伴う保護者の動向も見据えながら対応していく必要がある。その中で本園で行っている子育て支援室利用者に一定数の優先枠を設けたり、現在、在園している園児に限っている弟妹枠を広げるなどの案が考えられるが、それらを実施するにあたっては、2019年度当初から周知していく必要がある。  
また、本園の教育理念と伝統的な教育・保育が現代の教育動向にかなっていないことや短期大学部と連携しながら専門性を生かした教育・保育活動を行っていることを様々な形で強力に発信していくとともに、戦略的な情報発信が行える体制を作っていく必要がある。
- ④支援上配慮の必要な子どもたちが増えていることもあり、これまで以上に就学に向けての小学校との接続が必要である。また、学びの連続性という面からも小学校とのより一層人的な交流が必要になってくる。行事だけの交流をするのではなく授業や通常保育を見合うなどの取組の実現に向け、各関係諸機関と連携する足掛かりをつくりたい。そして、今後の幼少連携につなげていきたい。